



## 福島 78 便（視察研修 5 号）＜葛尾村＞報告

（ 公開 ）

### 1. 実 施 日

2017 年 10 月 28 日（土）～29 日（日）

### 2. 目 的

- (1) 東日本大震災と原発事故を『伝えていく』
- (2) 地元の現状、今を『正しく知る・伝える』
- (3) 自分たちにできることを『考える』

### 3. 主 催

かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）

### 4. 協 力

葛尾村  
社会福祉法人 葛尾村社会福祉協議会  
一般社団法人 葛力創造舎  
松本邦久様（実証田圃場）  
川島博幸様（地元の方、葛尾村社協職員）  
カフェ嵐が丘 堀江安則様、みどり様  
みどりの里 せせらぎ荘

### 5. 視察研修実施資料



かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）

目次

1. はじめに .....	3
2. 視察研修プログラムと場所・時間等 .....	5
3. 参加者（欠席 2 名含む） .....	5
4. 視察記録（写真一部） .....	6
5. 視察研修記録 .....	7
（補足） .....	29



## 1. はじめに

---

葛尾村長 篠木 弘 様  
総務課長 松本裕洋 様  
総務課 主任主査 岩谷一登 様  
葛尾村社会福祉協議会 常務理事 新開正和 様  
庶務主任 栗城恵子 様  
業務主任 川島博幸 様  
一般社団法人 葛力創造舎 代表 下枝浩徳 様

---

関係各位には、葛尾村の視察研修にあたり調整とご案内にご尽力いただきありがとうございます。大変充実した研修となりましたこと、御礼申し上げます。

私達も葛尾村とのご縁を大切にしていきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

---

カフェ嵐が丘 堀江安則様、みどり様

---

団体での利用に快くご対応いただきありがとうございました。参加者も大変喜んでいました。また機会がございましたら立ち寄らせていただきます。

---

私達が現地におもむく主旨

---

現地におもむいて初めてわかることはたくさんあります。  
自分で現地を訪れ、自分の目で見て、自分の耳で聞いて、体感する。  
そして、正しく知り、正しく伝える、それが大事なことと私たちは考えます。  
今回の訪問はとても貴重な機会となりました。参加者一同大切にさせていただきます。

本報告書の項番 5 に、参加者の所感をまとめました。それぞれの個人の私見、感じたことであり、編集時も内容には手を加えていません。それぞれの感じ方として受け取っていただければと思います。

本視察研修での経験は、当会の活動報告等のなかでも紹介していきたいと思えます。  
また、ぜひ神奈川にもお越しいただき、なかなか現地に行く機会のない人にも直接お話を伝えたいことができると思えます。そのときはどうぞよろしく願いいたします。



最後になりましたが、葛尾村の皆様が不便なく安心して生活できるようになるまで、まだまだ課題もあり、ご多忙な日々が続いていることと存じます。皆様、健康にご留意いただき、村の皆様が一体となって未来を築いていかれますことを祈念いたします。

かながわ「福島応援」プロジェクト  
代表 渡辺孝彦／広報 東尚子  
参加者一同



## 2. 視察研修プログラムと場所・時間等

- 【研修 1】 葛尾村の復興状況について（講師：岩谷様）
- 【視察 1】 葛尾村内（案内：下枝様）
- 【視察 2】 実証田見学（案内：下枝様）
- 【視察 3】 【研修 2】 帰還困難区域立ち入り（案内：川島様）
- 【視察 4】 【研修 3】 カフェ嵐が丘（お茶と団らん）

### 2017年10月28日（土）

- 11：45 葛尾村役場【研修 1】
- 12：30 広谷地集会所【視察 1】
- 12：40 野行地区【視察 3】【研修 2】
- 13：20 広谷地集会所【視察 2】
- 13：40 Cafe 嵐が丘【視察 4】【研修 3】
- 15：15 ヤマサ商店（買い物）
- 15：40 せせらぎ荘（入浴）
- 17：00 川内村いわなの郷（研修・宿泊・懇親会）

### 2017年10月29日（日）

川内村にて視察研修

## 3. 参加者（欠席 2 名含む）

### (1) 参加者数

	合計	女性	男性
参加者	16 名	7 名	9 名
宿泊者	16 名	6 名	10 名

### (2) 参加者年代

	30 代	40 代	50 代	60 代	70 台
年代	1 名	4 名	3 名	6 名	2 名

### (3) 参加者地区

相模原市	茅ヶ崎市	秦野市	葉山町	横須賀市
2 名	1 名	1 名	0 名	1 名
横浜市青葉区	横浜市神奈川区	横浜市金沢区	横浜市港南区	横浜市港北区
1 名	2 名	1 名	0 名	2 名
横浜市栄区	横浜市都筑区	横浜市戸塚区	埼玉県	東京
1 名	1 名	1 名	1 名	1 名

#### 4. 視察記録（写真一部）



葛尾村役場



葛尾村役場での研修



野行地区（車窓から）



実証田



Cafe 嵐が丘



Cafe 嵐が丘



## 5. 視察研修記録

- (1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般
- (2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）
- (3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）
- (4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）
- (5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）
- (6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）
- (7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ（村、下枝様、川島様、堀江様、村民の皆様へ）

参加者による所感をまとめましたので、目を通していただけたらと思います。

報告の文章は、明らかな誤字脱字の修正を除き、原則として原文のままとしています。誤解や知識不足などによる不適切な内容や表現があるかもしれませんが、ご理解いただけましたら幸いです。

参加者の氏名は記載していません。内部記録としては、実名版を保存しています。

**【参加者 No 1】（男性、60 代）****(1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般**

今回初めて葛尾村を訪問いたしました。昨年に避難解除がされたことはマスコミ等の報道で知っていました。帰還率が非常に悪いことも承知していました。1200 名の村民人口に対して村に戻った村民は 180 名余りとのことでこれでは行政としての機能はもとより生活インフラの整備どころではないと感じました。早急に双葉郡としての援助や合併を含めた対応が必要と強く感じました。

**(2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）**

村の担当者からの説明でも、今後どうしたらよいかかわからないような印象を受けました。交通死亡事故ゼロ 13000 日の看板がむなしく見えました。

**(4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）**

ここがきれいな水田地帯だったとの説明を受けなければただの雑木林としか見えませんでした。いつか住民が帰れる日が来るのかとの思いを強く感じました。

**(5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）**

厚木からの移住者と聞き親近感を覚えました。ただ生活の糧はどうしているのか？真冬のお客さんは来てくれるのか？車は相模ナンバーのままだから今でも厚木との往復生活なのか等々、色々な疑問がありましたがコーヒーは美味しく頂きました。またご主人がシャイなところも好感がもてました。庭からの景色はすばらしく、また店内の調度品やコーヒーカップもとても感銘を受けました。地震で倒れて割れないことを祈ります。

**(6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）**

一個人では行けないところ、お話を聞けないところが多かったので視察研修は今後も続けて欲しいと思います。

参加人数が少し少なかったのが残念でした。

**(7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ**

貴重な時間や場所を提供いただきありがとうございました。なかなかマスコミ等で取り上げられない地域の実情がよくわかりました。ありがとうございます。

**【参加者 No 2】（男性、50 代）****(1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般**

どの方もお話の際に資料を用意してくださり、そして、丁寧にわかりやすくお話をしてくださりました。あらためてお礼申し上げます。また、綿密で配慮の行き届いた研修計画を立てて実行された kfop の方々にも感謝いたします。

**(2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）**

詳細な資料と共に、原発事故の避難の様子から現在までの村の状況についてお話を伺った。村民一人一人との連絡手段を確保していることには感心した。これからの復興計画のお話も伺っ





て、いろいろ考えていることはわかったが、計画が実行されて村が完全に復興するには、まだまだこれからだなと思った。

### (3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）

見学しながら、復活した田んぼでの稲作りのお話を伺った。ボランティアを集め、周囲の住民も巻き込みながら農作業をする取り組みは大変素晴らしいと思った。

### (4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）

帰還困難地域での荒れはてた光景を見た。お話を伺っても、以前ここに 100 人以上の人が住んでいたとは思えなかった。この地区の将来性については軽々しく論じることはできない。

### (5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）

見晴らしよく景色の良い場所に 1 軒立っているカフェだった。カップのコレクションがすばらしく、室内の装飾も良かった。3 杯もコーヒーをいただき、ありがとうございました。

### (6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

葛尾村は、村内に一部帰還困難地域があるなど原発事故の被害も大きく、いまだに事故の影を引きずっている。帰還しない人もあり、田畑も荒れているところがある。村内に住んでいる人も、「若い人が頑張ってくれないと」と言っているが、半分諦めているようにも聞こえる。村が復旧しても、将来に復興するかどうかは難しいことだと感じた。

## 【参加者 No 3】（女性、50 代）

### (1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般

震災後 6 年以上が過ぎ、除染の具体的な動きは終了し、機材を使用して行われる風景は見当たらなかったが、民家の本当に傍近くに積み上げられているフレコンを見るたびに、間違いなくここは原発事故の放射能の脅威にさらされていることを改めて実感した。

おりしも紅葉の色鮮やかな美しい木々の中、バスの中からみられる風景に見とれながらバスの中での下枝氏の話をお聞きしながらも、ぼんやりとしてしまい大変申し訳なく感じた。

それほどまでに、手つかずの自然は美しく、なおさらここが帰村率 14.4% という人口減少に悩む場所であることが実感として感じるのが難しかった。

後に、村役場の方や地元の方々の話を聞いていくうちに、静かに確実にあきためないでここに住み続ける人々のエネルギーを感じた。

### (2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

原発事故の際の国の無力な体制は、原発被害の被災地どこでも同じで、身近な人々を守るため、市町村単位で独自に判断しなければならなかったという現実をお聞きして「ここでもか・・・」という思いを痛感した。

そういう状況であったことは、実際に被災地に出向いて話を聞いたり当事者でもない限り知られていないことだ。

少なくともいま私の住んでいる周りには、そのことを周知しているものは見当たらない。あらためてそのことを話を聞きながら、認識した。



帰村率もよくない状況の中でも、酪農が徐々にフックしつつあることや、エココンパクトビレッジに向けての計画、指導開始の話聞き着実に進んでいる復興への方向性を感じることができた。

また震災直後 IT 電話の普及が電気、電話などが途切れることなく使用できたことを聞き驚いた文明の利器は素晴らしく、県外移住者とのコミュニケーションもスマホの流通によりほぼできているとのことだった。

離れている人たちとの交流は、何より大切なことだと思う。

### (3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）

あいにくの悪天候のため、バスの車内から見ることになったが、すでに稲刈りも進んで、一見はどこでもある田園風景という感じだが、ところどころにあるフレコンの山を見るとやはり今更ながら被災地であることを思った。

素人の私にはどこがどう違うのか、見てもよくわからなかった。

申し訳ありません。

### (4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）

文字通りのゴーストタウンとなってしまった村の中に踏み入るのは、いつもとても心が痛む。川島様ご自身の住まいが帰宅困難地域にあり、リアルな話が聞けた。

森林の合間に見える柳の湿地が、かつて田んぼだったなんて、教えてもらわなければ絶対にわからないほど、伸びていた。

そこが田んぼだった時の風景を想像すると、本当にのどかな田舎の風景だったことだろう。携帯電話も通じないところがあるほど山深いこの場所で、不便かもしれないけれど日常生活が営まれていたことを話される川島様にかかる言葉が見つからない。

とても印象的だったのが「国や村がやってくれると思ったらダメ。自分たちで盛り上げていくということが一番大切。」と、凜として話されたことだ。

たくさんの方々のお話を今回も聞かせていただいたが、この言葉はとても深く心に残った。

### (5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）

正直、こんな奥の山道の果てにクオリティのかなり高いカフェがあるとは思わなかった。震災前から計画していたことだとお聞きしたが、それでもここに住もうと思ったことにいささかびっくりした。

採算の合わないことだと思うが、ご夫婦二人でこだわりを持って経営されている姿勢は、それがどこであろうと価値観を揺るがすものにはならないのだということを感じた。実際はとても困難なことなのだろうが、うらやましくも見えた。

秋の野草が咲き、素晴らしい展望の一軒家は視察ということのを忘れ、単純に心をいやしてくれた。今度来るときに解るよう、「もう少し大きな看板を広い道に出してくれればいいのになあ！」と思った。

### (6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

葛尾村という名前は知らなかった。

双葉郡の・・・というところで「そうか！」とわかり、震災時にメディアに出ていたのだろうと思うが、なじみはなかった。



ダッシュ村があったところ？ということを知り、テレビで見た風景と合致し、初めはのどかな田舎の村という印象で、6年の月日の中で変わってしまった現状は元の風景を知らない私にとっては、想像もできない。

いつも思うことだが、宮城県の南三陸や山元町などの津波の被害がひどかったところは荒涼と何もなくなっているため、見た目ですべて訴えてくるものがあるのでわかりやすい。

福島原発事故の被災は除染などはあるものの、車で通りすぎるくらいではわかりづらい。自分の車で常磐道を通り南三陸まで行った時も、初めて被災地に行く後輩を乗せていったが、説明してそこが原発事故の被災地だと初めてわかる始末だ。

今回も、また同じ感覚にとらわれながらもすこしずつ光明を見つけながら歩んできた方々の思いを知ることができた。

私には具体的に手を差し伸べ、一緒に歩くことは今の時点ではできないが、見てきたものを「伝える」ことはできるかもしれないと、強く思った。

#### (7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ

それぞれお一人お一人、6年の年月の中で、葛藤し、さまざまな想像もできないような困難の中で私たちを受け入れてくださりありがとうございました。

大変失礼な言い方ですが、私の日常の周りにはいる人たちと比べてとてもエネルギーでいらっしやいます。

放射能という目に見えない脅威と闘いながら、日々のストレスはもちろんあるであろうに、そんな中、今まであったことそしてこれからのことを、淡々と時に熱く語っていただきました。毎年、宮城県の気仙沼、南三陸、山元町等とともに、必ず福島にも足を運ばせてもらっています。

川島様が言うておられたように「自分たちでどうにかしていく。」という考えは、気仙沼の大谷町長さんが同じように話されていました。

「国や行政に頼っていてはダメだ。自分たちのことなのだから自分たちでどうにかしなければいけないという考えを、ここに住む人たちが6年たっただけで思えなければこれから先には進めない。」と話されていました。

大谷町は津波でたくさんの方が亡くなられています。

津波と原発、被災の状況は違っても家族や故郷をなくされた人々の思いは同じなのかもしれません。

どうか、皆様、まず御自分の体を大切にされてぜひまたお目にかかりたいと思います。知ることしかできない私ですが、伝えることをこれからはしていきたいと思っています。

#### 【参加者 No 4】（男性、60 代）

##### (1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般

震災前 1600 人程の小さな村が、何を生業にしていたのか、そしてその復興の現状はどうなっているのかを知りたいと思っていました。まず、葛尾村に入って、こぢんまりとした小さな村、地震の影響は他町村に比べて大きくなかった、と実感しました。しかし、役場の方々以外の住民の姿がほとんどみられませんでした。太平洋岸の富岡町から南相馬市に至る市町は、鉄道や



高速道路や幹線道路があり、また津波・地震や原発事故の被害も大きかったこともあって、復旧と復興は懸命に進んでいる印象ですが、葛尾村は原発事故の影響は大きいのに復旧と復興はそれらの市町に比べて遅れている印象を持ちました。

増田寛也編著の「地方消滅」では、日本が既に足を踏み入れている人口急減による地方消滅の要因として、少子と高齢化だけでなく“人口流出”も挙げています。原発事故で全村避難し解除後に人が戻らないのは“人口流出”と同じ状況であり、近未来の日本を先取りした状態に思えます。小さな葛尾村がどのようにして持続可能な村を目指すのか、今も模索している真っ最中だと感じました。

## (2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

帰還困難区域が残る葛尾村には、帰村人口の少なさと生業を取り戻す難しさ等難題を抱えていることが良くわかりました。これからも生活環境は少しずつ改善されていくと思いますが、どのようにして持続可能な村を目指すのかは、継続して議論が続いていくものと思います。その際、住民の方々と行政と一緒に議論していく必要があると思いますが、住民の方々とは月 2 回連絡が取れているとのお話で、良い状況が作られていると感じました。

## (3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）

とても小さな実証田でした。帰村した高齢農業者の生きがいとしての農業、という側面が強いとお話がありました。現状ではそれも大事な事と思いましたが、生業としての農業にするには次代を担う人たちの帰村が大前提と思いました。農業も、どのようにして持続可能な村を目指すのかの議論の論点のひとつだと思いました。

## (4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）

帰還困難区域で再び生活を取り戻すことの難しさを再確認しました。若い住民の方々の復興に対する気概が全てだ、とのお話にうなずくしかありませんでした。

## (5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）

震災前には村内に別荘がいくつもあり、都会から離れた自然豊かな村に住むという選択をされた方々が少なからず居た、とのお話を伺いました。このカフェのご夫婦もその内の一家族ですが、まだまだ生活環境に厳しい葛尾村に戻る決心をされたのには、並々ならぬ思い入れがあったのだらうと思いました。明るく元気なお姿に感銘しましたし、これからもずっとそうであって欲しいと思います。

## (6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

葛尾村が、事前に思っていたより想像以上に厳しい状況に置かれている、と感じました。原発事故の影響が大きい上に、事故を契機とした人口急減に対して、小さな葛尾村がどのようにして持続可能な村を目指していこうとするのか、これからも見続けていこうと思います。

## (7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ

何かボランティアをするわけでもない視察でしたのに、対応に関わって頂いた役場の方々、お話をして頂いた岩屋様、川島様、堀江様、案内をして頂いた下枝様には丁寧な対応をして頂き、ありがとうございました。視察の目的である葛尾村の現状を良く知ることができたと思っています。村の復興への皆様の思いが叶う日が、少しでも早く来ることを願っています。

**【参加者 No 5】（男性、60 代）****(1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般**

今回の神奈川からの研修便で、事前資料を読んできました。  
山を越え、葛尾村が見えた時感じたのは、盆地の中の集落—映画でよく見る情景。  
バスが通る山の中は、モニタリングポストの表示が高いな というのが第一印象でした。

**(2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）**

（勉強になった事は）

難視聴区域だったために敷設していた光ケーブルの効果で、村内の連絡が「内線状態」だったため、村の人に避難などの通報が即時可能だったこと。

（私たちが何をできる？）

現在、自分の町で、どのような住民に周知するインフラがあるかの確認。  
大災害時（停電、ケーブル遮断などの際）に、それが維持できるかどうかの確認。

**(3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）**

（勉強になった事は）

10 月 7 日に皆さんで収穫をなさった場所。私は不参加で初見参。となりに某大学の田畑あり。  
下枝さんからの説明：  
バス道中で見た、たわわの稲穂がそのままなのは、今秋の天候不順で、稲の収穫に人集めできないためと。

（私たちが何をできる？）

思い当たらず。

**(4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）**

（勉強になった事）

311 当時の地区内のくらしがどのようなだったか。  
50 歳川島さんが先を考えて、なお地域の事を考えた発言。

（私たちが何をできる？）

地区の皆さんに直接できることはないが、日本全体の高齢化社会の先鋒として考える事ができました。

**(5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）**

たくさん場所に行く研修便の行程の中で、ホッとできる場所でした。  
事務局の皆さんのコースづくりに感謝。

**(6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）**

◆個人全体所管（葛尾・川内共通）



「研修便」というのは初めてでした。

作業ボラの場合の「訪問は一か所でかつその作業に関連した現地の方のお話を伺う」というのと違って、現地の方から伺った情報多くためになりました。今でも私の中で整理中です。

#### ◆神奈川にむけて

私は横須賀市（人口 40 万）に住んでいますが、そのような規模とは違い、まさに、住民と顔が見えるつきあいができる自治体でこそ、発災時の、状況に応じた対応が可能だったのだと思います。

デカイ自治体だと、首長に当事者能力がなくなりますから。

→都市の自治体でも、町内会の活用？

（戦前の「隣組」のような上意下達ではだめ。住民の顔が見える対応ができるのは町内会）

#### (7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ

葛尾村ご担当者様：

とても理解しやすいお話でありありがとうございました。

村内が「内線状態」ということだったことで救われた事や、現在も村外へ避難中の方へのご対応など、よくわかりました。

下枝様：

「元通りの暮らしを戻してあげたい」というお気持ちがよくわかりました。バスの中でのお話（事故死ゼロの村、仮置き場など）のほか、嵐が丘での山並みのご説明や、ちょうど席が一緒だったのでお話しした東京の学生時代のお話なども楽しかったです。ありがとうございました。

村でホッとしたのは、バスで通過した時に見た小さな田んぼを手入れしているおばあさんの姿。これが、元通りの暮らしをなさっている事なのかなと思いました。

川島様：

「自分は 50 歳。この地区は、若い人の気概がないと消滅する」というお言葉。

よく考えたいと思います。

溪流と紅葉の山道なのにバスから降りられない、それが、皆さんが「帰れない」ということだと感じました。田んぼがヤナギの林になってしまう様子など、ご説明わかりやすくありがとうございました。

堀江様：

とてもおいしいお茶とお菓子、ごちそうさまでした。

我が家は、お茶も、スープも同じカップで飲みます（味噌汁はサスガに別）ので、ステキなカップで頂くのに、やや「緊張」しましたが、堀江さんご夫妻のお話やボランティア仲間との一服、ゆっくりできました。ありがとうございました。

**【参加者 No 6】（女性、60 代）****(1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般**

相双エリア、今までこの葛尾村の名を知っていても 3 月 11 日以後、指示が出ないものの県からの連絡もなしのまま、村長が避難を決断、そして 1 時間後に村を出たと初めて知り驚いた。沿岸部のことばかりが報道され、小さな葛尾村に目を向けることができなかった。ボランティア仲間もなかなか「かつらお」と読める人も少なく、避難当時の御苦勞に目を向けられなかったことが申し訳なく思う。

ひっそりと、たぶん震災前も静かに暮らされていた村、観光に訪れる方も少ない、本当に穏やかな村だったと思った。

**(2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）**

小さなプランから実現して、大きなプランへと。

450 世帯とのことで、全体に目が届き安否確認もすぐできたと。メリット部分のお話をめったに聞けない言葉で感激した。

ただそのため報道に出ずに、問題視されずなのか？と。

避難の件、会津の中でも翌日には生活環境のよいホテルなどに移動できたとの話にも驚いた。（狭い避難所で何日も苦勞され、食物にも困っていたとの先入観念がありすぎるから。）

徐々に静かにできることをそれぞれにという感じが好ましくも、役場の岩谷さんが落ち着いた方なのでそう感じたのかなとも思う。

**(3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）**

お天気が悪かったので、そのせいか閉塞感のある田のように思えた。葛尾村の田畑の広がるところを見ていないせいか。

開拓者の村とうかがい、このように小さな田をいくつも作り上げていったであろう、先住の方々の苦勞まで思いました。

ここで高齢の方々とボランティアの方々の一時のふれあいと喜びと、それが一時でなく、普通に続く形となったらいいなと思った。

**(4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）**

すごい溪谷だった。背丈の長い草に隠れた家、たぶんここには何年たっても人は戻ってくることはないのではないかと。

やはり心情的に、雨、空の重い日は、よいほうに思いが届かなく、申し訳ない気持ちで見学した。

ここは浪江に入る道、冬季には凍って通勤も大変と話され、ますます気の毒に思った。

ふるさとが自分のふるさとが、ここであつたらと子供たちには新しい土地でふるさとを作りなさいと思うのは、いけないことではないと思った。申し訳ないですが。

**(5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）**

すごい勇気だとただただ敬服した。

バスでいろいろ回ってたどり着いた場所なので、とても人里離れた場所と感じたが、そういう場所を望まれたのだと。

村の方々との交流がどうぞ、楽しくあるようにと願っています。



今日はなんでか奥様機嫌がいい、ハイテンション！！だといわれた。(神奈川からいうということが)

ご友人がお見えになるということで、どうぞお体大切にと思った。

#### (6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

まったく混乱の時から解除になってからも葛尾村の情報はほとんど皆無に近かった。

下枝さんが「ここは他と違い、何か発展させようとかせずに、今ここにいるじっちゃん、ばっちゃんを大切に幸せにすることが、まずやることだ」と言われていたのが印象的。

「いろいろ癖のある面白い人がいて、そういう人でなければこんなところで楽しく生活できるわけがない」、とも。

胡蝶蘭、畜産、林業と頑張れる年代の方々も確かにいるということがとても心強く楽しみたいと思った。

#### (7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ

ただただ見学させていただきただけで申し訳ありません。下枝さんが神奈川との風通しを作ってくださり、いろいろ知ることができました。

何年後の村の姿に、あの時はこんな感じだったと話ができるよう、神奈川より応援見守りたいと思います。

ツールド葛尾はいかがだったでしょうか。多くの方々がこれをきっかけに村のことをもっと知っていただけたらと思います。

ありがとうございました。

### 【参加者 No 7】（男性、60 代）

#### (1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般

初めての葛尾村、バスから見える景色は、赤や黄色の葉に色づいた木々の山。下枝さんのお話の通り、葛尾村は山村で自然豊かな所と感じました。でも途中途中、フレコンパックが何段にも積まれ、シートに覆われた一面を見せられ複雑でした。更に野行地区（帰還困難区域）に入り、「ここは元田畑です。6 年 7 ヶ月経ち、木で覆われてしまいました。」本当に田畑だったことが、想像もできない程になっていました。でもこの故郷に戻りたい。故郷に帰ろう。野行地区を作り直す。この葛尾村は、元には戻らないが葛尾の心、葛尾の人繋がりを大事にしていこうにしようと頑張っていることを知りました。

#### (2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

3.11 震災当時の話は、まだまだ私達の知らない事、本当の事、被災した方々大変さを知らされました。震災当日から神奈川では、震災の現状をテレビやラジオに震災の様子知ることができていました。葛尾村では、情報が無く、大変さにも気付くことができず、地元原発に勤めていた作業員から「やばいよ！」の話で大変なことが起きている、様子は分からないままの避難、大変だったことが分かった。

役場職員の仕事の大変さも知った。普段の業務、村の復興計画、福島県・県外避難者への広報連絡などなど職員も限られ、職員自身も被災者、その中での仕事の大変さを知った。





復興計画も進んでいるが、時間が経つにつれての避難者の村への帰還意識が替わり、計画通りの進まない状況とそれに対応する政策の大変さを感じた。

### (3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）

案内された実証田には、稲刈りが終わり稲穂が干されていた。帰村した人達の「喜ぶ笑顔づくり」の一つに、昔から行われていた稲作を行った。帰村した人だけでは田植えと稲刈りは、帰還した人だけでは手が足りずボランティアの力を借りて行ったそうだ。また作業後、毎年恒例としていた「収穫祭」も行った。昔の収穫祭の写真をみると、村の交流の場であったようだ。今年は、その復活をボランティアも参加し、昔を思い出し「喜ぶ笑顔づくり」は成功していた。

### (4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）

帰還困難で 6 年 7 ヶ月放置された葛尾村は、海沿いの町の田畑と比べ全然違っていた。放置された田畑は、すでに木が 2~3m 蔓延り田畑だったことが想像もできなくなっていた。川島さんの話で、「若い世代の住民がいかにこの地区を復興させようとする気概がないとこの地区は間違いなく消滅を迎えるであろう」その通りだと思う。でも、誰も自分の生活を寄り良くしようと望むの同じである。外の間人があまり言えることではない。そんな狭間で苦しんでいる方々がいらっしゃることを考えさせられた。答えは無い。

### (5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）

山の上のカフェ、カフェ嵐が丘に入るとそこは、都会でもちょっと無いおしゃれなカフェでした。クツを脱いであがると壁一面に飾られたカップと「何これ！」と言葉にしたくなる装飾品が目にとまりました。

席に着き、お茶を頂く為に、飾りと思っていた壁のカップを選び、そのカップでコーヒーを頂きました。いつもと違った気持ちと雰囲気になるコーヒー、心の洗濯の場かな！

震災前からの夢のカフェを実現したお話を伺い、何か勇気を頂いたようでした。外の庭からの景色は、山頂からの展望でした。また来てゆっくりお話を伺いたい気持ちで山を下りました。

### (6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

まだまだ知らない福島を知ることができました。福島でもっとしなければいけないことが一杯でした。でも私ができることは僅かです。「まだ、福島行っているの」と聞かれることがあります。関心の無い人には、あまり話しませんが、できるだけ福島を伝えるようにしています。復興には今できること、長い時間を掛けること沢山の取り組みがあることが分かった。

### (7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ

休日にも関わらず、私達のために資料を準備しお話し頂けたことに感謝です。実際目を見て、直接お話を聞きしました。まだまだお話ししたいこと伝えたいことがいっぱいあるように感じました。短い時間の福島訪問でしたが有り難うございました。

## 【参加者 No 8】（女性、40 代）

### (1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般

葛尾村での時間が全体として短かったため、それぞれのお話をじっくり聞けなかったのは残念



だったが、村内は丘や溪谷もあり風光明媚なところだった。村の 80%が山林ということだが、山林の除染がおこなわれないため、ツール・ド・かつらおのようなレジャーがらみの振興策や、観光客を増やす方向は難しい面もあるかもしれないと感じた。

村の中心地に積まれている汚染土のフレコンバッグが運び出されるまで、たとえばダンプの通る道路の整備など多くの課題があるだろうが、元の風景に戻るまで関心を持ち続けたい。

帰村したと言っても 2 拠点居住の人が多いいという話があったが、今後、住民税や行政サービスをどうするのかという問題が出てくるのではないだろうか。広域避難をしている方も含め、二重住民登録制度のような制度の議論がきちんとされるといいのだが。

「葛尾は遅れているかもしれないが、他と比べてもしょうがない」とおっしゃっていたが、そのとおりで、役場でのお話でも感じたが、葛尾ならではの強み、方向性があるはず。

## (2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

全村避難から現在に至るまでのさまざまな対応に、小さな村ならではの特長を感じた。

国や県から避難指示が出ていない早い段階で全村避難を決断されたことは、村民の安全を第一に考えた的確な判断だったと思う。IP 電話が全村で導入されていたというお話には驚いたが、それが幸いし、地震のあとも電話が不通にならなかったことは、他の自治体にも参考になる事例だと思う。

村民全員の連絡先を把握できていること、また、同意があれば役場から知人に連絡先を教えることができるきめ細かさは、葛尾村ならではのあり、村民が望む形での施策に生かされるといいと思う。

## (3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）

じっちゃんばっちゃんにとって、自分が作ったものを子や孫に食べさせたい、それが幸せだったというお話や、かつては集落の人たちで助け合う「結」という関係があったというお話を聞いて、今後の村にとって大切な視点だと感じた。

避難指示が解除されたとはいえ、収入源としての水稻栽培は難しいのではないかと考えていたが、農産物を作り、それを食べてもらうことに大きな意義があるのだろうと理解した。

## (4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）

入植者が開墾したという野行行政区は、帰還困難区域のため除染も家屋解体もおこなわれないまま、田畑には木が生えて原野のようになっており、「また一から開墾しなければならないのか」という気が遠くなるような心持ちになった。モニタリングポストの数値も高く、原子力災害の怖さをあらためて思い起こさせる。

この行政区の 33 世帯 113 人の住民の方々がこれからどうされるのか、復興拠点整備など行政の計画に頼るだけでなく、若手を中心に自分たちでできることを何とかしようという気持ちがまとまらなければ、集落が消失する可能性もある、という言葉が重い。軽々しいことは言えないが、たとえコンパクトになっても集落の形が残ることを願っている。

## (5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）

震災からカフェ開業まで多くの悩みと苦労があったと思うが、ご夫妻がとても穏やかな笑顔で迎えてくださり、すてきな時間を過ごすことができました。ご主人は大人数の前で話すのを遠慮されていたが、またゆっくり時間のとれるときに訪れて、お話を伺ってみたいと思った。

**(6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）**

葛尾村役場には横浜市からも応援職員が入っていたと伺ったことがあるが、前例のない災害への対応から学べることは多いだろうし、まだ帰還困難区域があり未解決の課題もある。行政手続きなどの応援や専門家の派遣で支援するだけでなく、継続して官民から人を派遣するといいいのではないかと思う。

**(7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ**

休日にもかかわらずお時間を割いていただき、また全体のコーディネート、諸手続きや資料の準備など、大変お世話になりました。

カフェ嵐が丘の堀江様ご夫妻には、たっぷりのおもてなしをいただき、みな感激していました。これをきっかけに、また村を訪れる機会を持てるように、つながりを維持したいと思います。

**【参加者 No 9】（男性、30 代）****(1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般**

一部の地域かつ、短時間しか見ていないということもありますが、村の方を見たりや車の往来が少なく、帰村がまだまだなのかなという印象を受けました。

日程終了後に入浴施設に立ち寄りをした際に、村民の方と思われる方達にお会いすることができました。お話しはしませんでしたでしたが、楽しそうに談笑されている姿を拝見して、震災前と同じような光景なのかなと思いました。

**(2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）**

今まで kfop の視察研修便で沿岸部の町を 4 回で 5 町訪問させて頂き、震災当日からのお話を伺いましたが、津波被害と原発事故という二つの問題に対処しなければならない混乱の状況下での生々しいお話を伺ってきました。

今回の葛尾村は地震の被害はあったものの、津波のような大きな被害はなく、原発事故による避難という目に見えない被害から村を離れなければならず、また目に見えない被害ゆえ、どこへ避難すべきか見極めながらの避難に相当のご苦労があったものと感じました。

村民の方の帰村状況や村の政策などを伺い、これからの復興についてご説明を頂いたなかで、若い方向けの住宅を建設したり、企業誘致をされたりと着々と帰村者を増やす取り組みが行われていると感じました。

お年寄りの帰村者が多いなか、就労人口の増加は村の将来を担うこともあり、もっと力を入れて推進されてもよいと思いました。

**(3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）**

実証田で収穫されたお米の放射線も検出されず、出荷できるレベルとのことでしたが、少しでも多く作付けして一日も早く元どおりに戻ることができればと感じました。

専業で農家をされている方が少ないとのことでしたが、営農を再開することができるようになれば、村民の方の生きがいにもつながるでしょうし、早く帰村しようという動機づけにもなると思います。

田植えや稲刈りのイベントなどで村外の人との交流を深めているとのことでしたが、移住者の



取り込みや、村民の方達の生きがいになるような形で発展して行けばと思いました。

#### (4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）

短時間ではありましたが、野行地区の現状を実際に見ることで、以下のように感じました。

・2015 年から沿岸部にある他の町の帰還困難区域をご案内頂いておりますが、他の町と同様に草木が生え放題で元の風景が分からない状況で、写真やご案内頂く方のご説明ではじめて今いる場所に田んぼがあった、奥の草木が覆い茂っている場所にわずかにお家が見えるといった、震災前と現在の比較ができる現状に、一日も早く復興して欲しいと強く思いました。

・草木が覆い茂る所が大半ではありましたが、その中でもお墓の周りがきれいに草取りされていて、帰還困難区域の中でも人の出入りを感じることができました。

・野行地区の浪江町との境界地点までご案内頂いた際に、通った道が急傾斜で幅も狭く、携帯電話の電波も届かない箇所があるとのことの説明を受け、その道が近く通行のみ可能になるとのことでしたが、その様な場所で自走不能な事故等が起きたら、救助要請が困難になると思いました。通行可能にする前に全線で携帯電話が通じるインフラの設備が必要だと感じました。

#### (5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）

スケジュールの都合上、短時間の滞在になりましたが、美味しいコーヒーとケーキを有難うございました。

震災の少し前に神奈川県から移住されたとのことのお話を伺い、親近感が湧きました。

もっとゆっくりして、お話を伺いたかったです。

#### (6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

震災前の村民 1,567 人のうち、帰村者が 187 人と復興にはまだ遠い現実ではありましたが、若い人も移住されたり、少しずつ人口も増えて着々と復興に向けて進んでいると思いました。

#### (7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ

この度はお忙しい中、葛尾村の現状についてのご説明を頂きまして有難うございました。

帰村者がいまだに少ない現実ではありますが、魅力ある葛尾村の情報を提供し、多くの人に来てもらう、見てもらう、住んでもらうことで、帰村者以外に I ターン者が増えることも重要だと思いました。

その為には、就労先の確保、住宅の確保が必要になってくると思います。村や村民の皆様のご理解、ご協力によって一日も早く復興につながればと思っています。

### 【参加者 No 10】（女性、60 代）

#### (1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般

視察研修が丁度紅葉の時に、山々がきれいに色付いていたのがとても印象に残っています。

それを差し引いても、自然の豊かな村だと思いました。

いわなの郷、また違う季節に行ってみたいです。

野行地区のダッシュ村の入口、テレビで見ていたのがここなのかと改めて入れないところなのだと確認しました。

大切に育てら牛を殺処分して、大きな穴に埋めていた。案内していただいてテレビで見ていた



ことを思い出しました。

### (2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

震災直後のお話として、オフサイトセンターから要員が避難したという情報を入手したので、村長が避難を全村民に勧告し避難に至った。光ケーブルがあったから、電話は切れず安否確認ができた。高齢者向けには防災無線が使われ、いずれもすみやかに安否が確認されてよかったと思いました。

葛尾村が避難指示区域の見直しで区域が 3 つに分けられたので住民がバラけてしまったことや、村役場社協・学校の先生など村の人は半分くらいで、あとは他から来た人が多く仕事のやりづらさを感じているところだそうです。

復興に向けては米の実証栽培が実施されるようになったことと、畜産に関しては飼料の買い付けなど資金面の心配はあるが、売値が高く需要があると行っていました。

復興住宅も若い方向けの住宅 6 棟がいっぱいになったということでもよかったなと思いました。村人は 150 人戻っているが高齢者が多く、2 か所居住の方が 50 人くらいいらっしゃるそうです。葛尾村での 1 か所居住になるのはなかなか難しいのかもしれないと思いました。

### (3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）

想像していた以上に広い田んぼだったから、手植えや手刈りの作業は大変だったろうなと思っています。

でも学生の方やボランティアの方、地域の方々がワイワイガヤガヤと楽しみながらやっていたのかなとも思いました。

掛け場にきれいに干された稲を見て、おいしいお米がたくさん取れるといいなと思いました。

そしたらまた皆さんで収穫の喜びを味わえるから。

周りの山の紅葉もきれいでした。

### (4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）

野行地区のお話をお聞きしました。

この地区は開拓で入植した方が多く住む地域だそうです。頂いた資料の中に 65 年前の開墾風景の写真がありました。男の方も、女の方もいい笑顔で、白黒写真野中に移っていらっしゃいました。

一生懸命開墾して美しい里を作り上げられていたのですね。

震災の影響で帰還が困難になってしまい 6 年 7 か月が過ぎ同じ葛尾村なのに、野行地区はいまだに手つかずのまま「今後、若い世代の住人がこの地区を復興させようとする気概がないとこの地区は間違いなく消滅を迎えるであろう」とおっしゃっていたことが、とても悲しかったです。

### (5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）

いれたてのコーヒーをお好みのカップを選んでいただけるなんてとても贅沢なひと時でした。

コーヒーもケーキもおいしかったです。

震災時は大切にしていたカップ等がたくさん壊れてしまって大変だったそうですが、とにかくご夫婦のこだわりがいっぱい詰まった素敵なお店でした。

ゴーヤの佃煮がおいしくて、レシピまでいただけて最高でした。

**(6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）**

野行地区は葛尾村の中でも帰還困難区域で、ほかの地区のように復興に向けての取り組みがまだこれからなのだと痛感しました。

役場から見える山々が紅葉していてとてもきれいでした。

自然の豊かな村で、季節の行事やお祭りなどでにぎわっていたんだろうなと思いました。

復興に向けて熱い思いを持っている方々がいらっしゃるのを、参加することでより実感できました。

**(7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ**

下枝様 川島様 堀江様 皆様

視察研修へのご準備、有難うございました。

当日はバスに乘車してご案内いただきありがとうございます。

皆様からお聞きしたお話やご案内いただいた場所を忘れないようにしたいと思います。コーヒーおいしかったです。ゴーヤの佃煮美味です。お世話になりありがとうございます。

復興が進んで戻る方が増えて村民の方々が楽しく過ごせる日が一日でも早く来ることをお祈りしています。

**【参加者 No 11】（女性、40 代）****(1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般**

人口が少ない大変さはあるけれども、そのコンパクトさゆえの、纏まりの強さというものを感じました。

**(2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）**

役場職員が多くの村民の携帯電話の番号を知っているというエピソードを聞いて、人口の少ない自治体ベストスリーに入る葛尾村ならでは、村民と役場職員の近さを感じました。村内の電話が無料、村全体に光ケーブルが敷設されているなど、ツールも充足していると思います。ネット環境が整備されているのは強みだと思います。

**(3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）**

米は日本の歴史の中で、長い間、経済や文化、生活の中心でありました。その米作りを通して復興の手始めの一つとする活動理念にとっても共感します。

**(4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）**

「ここは元田んぼでした。」とおっしゃられる迄、6 年 7 か月前、そこに人の生活があったとは全く感じとれないような風景に驚きました。

福島に行く度に、いまだ除染すら完了せず、「元」自宅に入るのに許可のいる方々がまだまだいること、忘れてはいけないと思います。

**(5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）**

庭からの景色が綺麗でした。ゴーヤの佃煮美味しかったです。

**(6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）**

まだまだ知識不足、勉強不足ではありますが少しずつでも発信していければと思います。

**(7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ**

色々お世話になりありがとうございました。

**【参加者 No 12】（女性、50 代）****(1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般**

講演会でもお話しいただいた下枝さんに案内していただく。熱い思いとあたたかな心で目の前の手が届くことに取り組んでいると感じた。大きなことは行政に任せる。田んぼを復活させ村民の生きがいを取り戻すこと、それが復興と考えていると。ミクロからマクロへ。小さな動きが広がって村の復興につながって行くことを祈ります。

**(2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）**

3.11 の地震そのものの人的被害はなかった。翌日には他市町村からの避難者を受け入れると同時に 20km 県内に避難指示が出、14 日には村長判断であづま総合体育館へ避難。きっかけは原発作業員からの「危ない」との一言と、オフサイトセンターから要員が避難したとの無線傍受だったとのこと。

もともと 450 世帯強の村、電波が届かないため全戸光ケーブルでつながり IP 電話があったため役所からの発信ができた。役所近くの地域に居住・生活を集約するエココンパクトビレッジを計画している。若者（若い世代）向けの住宅 6 棟も震災後、村で働くようになった世帯で満室になっている。村民が帰るためには東電からのお金で再建する必要があり、入居者は村外の世帯。林業は山道の除染が行われていないが、胡蝶蘭の栽培を新たに始めている。完全帰還ではなく 2 拠点居住（若い人が多い）でも取り組める仕事として期待されている。避難している村民の住所を 100%把握して、お互いの情報交換の仲介もしているとのこと。横浜のような大都市ではできないとのこと。

ライフラインも復旧、田村氏に逃がしていた牛も戻り、稲作も再開。移住の方も含め活気がある村になることを信じたいと思います。

胡蝶蘭は既存の農業と異なり、サラリーマンスタイルで取り組み可。平成 30 年には大田市場に出る予定。

**(3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）**

放置された田んぼはススキなどでおおわれている。

実証田はまだまだ規模は大きくはないが確実に、戻ってきた高齢者の生きがいづくりに役立つ取り組みであるとお話しいただいた。

早朝から田んぼに出て農作業をして柏もちを食べる。そんな日常が戻ること、それが復興なのだ。

線量検査もクリアしたとのことなので、規模を広げ流通されるようになるとさらに励みになるのではないかと感じた。

**(4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）**

I ターンで 2005 年、奥様の実家がある野行地区へ。34 世帯約 130 人。炭焼きで栄えた地域、標高 600m、マイナス 20 度を記録したこともある寒さの厳しい土地。来春には自由通行になる予定。現在はイノシシやマムシも出るといふ。高齢者は戻っても若い人たちは帰ってくるのだろうか。

地区には減容化施設があり、山あいでは携帯電波も届いていない。若い世代をどう戻すのかが村の存続にかかっている。

道路脇は絶壁。その下にはきれいな溪流が見えていたが細部まで除染し釣りができる日はやってくるのだろうか。

**(5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）**

日常を忘れるほど素敵なお店。退職されたご夫婦が営み、調度品も素晴らしくコーヒーもスイーツもとてもおいしくいただいた。お店の前から見る山々は絶景でした。

**(6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）**

まだまだ課題が多い地域だと感じた。人口 1463 名中避難者は 1226 名。うち 1128 名は県内の仮設や借り上げ住宅に居住。高齢者は戻っても若い世代が帰村しないと活性化は厳しいのかと思う。

行政や社協に加え、下枝さんのような活動が広がっていくことが後押しになるのかと考える。神奈川からもそこへの協力はできるのではないかと思う。

**(7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ**

それぞれのお立場でやるべきことできることに取り組まれているのだと思います。もともとのコミュニティーがあまりに小さく、横浜で生活する私からは想像のつかないことも多いですが、感じたことを忘れずに力になれることを見つけていきたいと思います。

資料もたくさんご用意いや炊き、貴重なお話をありがとうございました。カレンダーの写真からも見て取れる自然あふれる美しい村に多くの方が訪れるといいですね。

**【参加者 No 13】（男性、70 代）****(1) 葛尾村内を視察して（視察 1 の所感）全般**

10 月 28 日（土）正午、葛尾村役場に到着。役場と棟続きの村民会館 2 階の会議室で副村長から葛尾村の地勢、被災状況および避難、帰還、復興状況について説明を受けた。

葛尾村は阿武隈山地のほぼ中央部に位置し、総面積 84.37 km<sup>2</sup>の 80%が森林で、平成 23 年 3 月 11 日時点の人口 1567 人で、震災前までは農業と和牛飼養、豊かな自然環境と観光の村であった。

東日本大震災で最大震度 5 強の地震により 47 棟の家屋が被災したが、人的被害はなかった。村域のほとんどは東京電力福島第一原発から 20 km圏外に位置しているが、一部が 20 km圏内に入る。

3 月 12 日、福島第一原発 1 号機の水素爆発後、他市町村からの避難者が増え始め、村内避難所 2 か所および民家で避難者を受け入れ、婦人消防隊も炊き出しを開始した。葛尾村でも 20 km圏



内に入る 27 世帯 96 人のうち 35 人が葛尾村落合にある葛尾村健康増進センターに避難完了した。

3 月 14 日になると、3 号機の水素爆発を受けて、21:15 村長が避難を決断し、22:15、612 人が 70 km 北西の福島市内のあづま総合運動公園へ向け出発し、23:05 到着した。

さらに、3 月 15 日から 8 月 31 日まで、原発から 100 km 以遠の会津坂下町に 2 次避難したが、家畜の世話等のため 256 人があづま総合運動公園の体育館に残った。3 月 18 日、各種証明書発行などの行政サービスを川西公民館で開始した。三春町の三春ダム湖畔 9 か所に葛尾村の応急仮設住宅団地を集約建設されると、6 月 15 日には三春町に村役場三春出張所を設置され、約 60%、830 人の村民が震災前の居住地の実情に応じた住宅配置に従って順次三春町に 3 次移転した。

葛尾村では平成 24 年度に公共施設の除染を完了し、平成 27 年度までに宅地・農地・道路・林縁部から 20m 以内の森林の除染を完了し、平成 28 年 6 月、浪江町に隣接する放射線量の高い野行地区の帰還困難区域を除き、葛尾村は避難指示解除となった。

平成 29 年 10 月 1 日時点の人口 1463 人のうち、帰村者は 94 世帯 187 人（帰村率 14.4%）であり、帰村者 187 人のうち完全に葛尾村に定住しているのは約 100 人で、約 90 人は非定住者という。

現在も村外に避難生活している村民は 1228 人で、うち、県内の 19 市町村に避難している村民は 1128 人（仮設住宅居住者 157 人、借上げ住宅居住者は 149 人）である。現在なお約 48%は三春町の三春ダム湖畔の応急仮設住宅団地に居住している。

帰村が進んでいない理由は、①住宅建て替え等の住環境整備が遅れていること、②買い物、医療・介護・福祉体制など生活環境整備が遅れていること、③避難先での就職・通学などの生活の定着化が進んでいること などである。葛尾村は避難指示解除となって 1 年 4 か月であり、これが上記①、②、③の根底にあるが、復興と村民の帰村を促進するため、以下のような整備事業を進めている。

### 1) 農業・畜産・企業誘致など生業の復興および雇用確保

長期避難に伴う営農意欲の低下に対し、水稻実証栽培の米の全量全袋検査で放射線不検出が確認され、平成 29 年度から 14 戸が約 9ha の水稻栽培を再開した。

また、地域の伝統食である凍み餅を（有）ふるさとおふくろフーズが製造・販売を再開した。

畜産の復興では、田村市に預託していた肉用牛の一部約 50 頭の飼養を村内で再開した。

県外の繊維関係の製造業が村内に新工場を設置し、平成 30 年度から操業を開始する。

胡蝶蘭栽培施設・産業団地等の造成などによる新たな農業と雇用機会の創出を図っている。これらを促進するため、平成 29 年度事業として復興交流館・農業用倉庫・防災備蓄倉庫などの拠点施設による生活基盤整備が実施中である。

### 2) 住宅建て替え・リフォーム等の支援

避難した村民については復興公営住宅の整備による住居確保が三春町恵下越団地、西の内集合住宅の整備を平成 28 年度に実施したが、村内各地に分散する長期避難に伴い荒廃した家屋についても、極力、村中心部の落合地区などに再建することで、コンパクトレジを迫及する。

### 3) 生活環境・医療環境などの整備

村内の主要 3 商店が営業を再開したが、村としても生鮮食品等の無料配達、田村市の複合商業施設への村営無料デマンドタクシーの運行などで買い物環境を確保しようとしている。



医療・介護・福祉については歯科診療所、村立内科診療所を週 2～3 日態勢で再開した。

また、村の社会福祉協議会では高齢者等の見守り訪問やデイサービス事業を実施している。

#### 4) 文教施設の整備

平成 29 年度現在では村営幼稚園に 27 人、小学校に 50 人、中学校に 40 人、合計 117 人が在籍、うち 35 人が三春分園・分校に在籍している。平成 29 年度に、幼稚園、小中学校、体育館、プール、給食センターなどの文教施設を整備し、平成 30 年度から再開する予定と聞いた。

#### 5) 帰還困難区域野行地区の復興

葛尾村野行行政区は浪江町に隣接し、震災前は 34 世帯 130 人が居住していたが、現在は帰還困難区域となっている。平成 26 年 5 月から 30 年 3 月までの期間で、地区内に除染廃棄物減容化プラントを設けて村内の廃棄物、フレコンバッグ 408,772 袋の減容化を行った。現在、プラントは撤去、原状復帰中である。

平成 29 年 5 月、改正福島特別措置法が公布・施行されたことを受け、特定復興再生拠点区域復興再生計画を作成し、国に申請し協議を進めることとしているが、その具体策は未だ聞かない。

### (2) 葛尾村役場様のお話をお聞きして（研修 1 の所感）

総面積の 80%が森林で、県内で少ない方から 3 番目の人口 1567 人、震災前までは農業と和牛飼養、豊かな自然環境と観光の村であった葛尾村の特性が、復興にも帰村にも大きく影響していると思った。葛尾村では平成 27 年に「帰村にむけたプログラム」を策定し、平成 33 年度までの帰還で葛尾村を復興させることを全 11 行政区を対象に村政懇談会を開いて村民に提示した。しかし、現在復興が進みつつあるのは役場や商業施設などがある落合地区などに限られ、狭い平地には 27 年 10 月までに除染した廃棄物などのフレコンバッグ 408,772 袋が各地の優良農地に仮置きされている。避難指示解除から 1 年半、財政的裏付けも限られる中で、帰還が先か、農業・畜産など生業の復興および外部企業誘致による雇用確保が先か、商店などの生活環境・医療環境や文教施設などの整備が第一か、行政も夫々の村民も重い課題を突き付けられている。

一筋縄ではいかない面があろう。

### (3) 実証田を視察して（視察 2 の所感）

葛尾村役場の説明の後、一般社団法人葛力創造舎代表理事の下枝浩徳さんが同乗して村内各地区を視察し、質疑した。

広谷地集会場のモニタリングポストの放射線量は  $0.162 \mu\text{Sv/h}$  であった。周辺の山は松茸などキノコが採れるが、一般的に放射線量が高いという。しかし、集会場の前に広がる水田では付近の農家が水稻栽培していて、その一部約 1.3 ha の実証田では、10 月初めに日大郡山キャンパスなどの大学生や高校生も参加して稲刈りをし、はさかけして干してあった。葛尾村産の米はゼオライトを鋤きこんだ水田で栽培され、全量全袋検査でセシウム 137 などの放射線量は検出限界値以下であり、出荷可能となり、平成 29 年度からは通常栽培が可能となっているが、風評被害も消えてはいない。

29 年度の水稲作付面積は約 9 ha 程度、農家数は 14 戸にとどまっているが、米作りは村民のなりあいであり、実証田で皆で共同作業し、作業を終えて共に食事をするのは楽しい。そこにやりがい生まれ、生き甲斐を取り戻すことに通じる。稲刈りに加えて、来年の田植えにはま

た応援の人々に来てもらって一緒に植えて、村民に一層元気になってもらいたいと下枝浩徳さんが話していた。

ツールドかつらおやロードレースが行われるコースは美しく、環境は適切な高低差も変化もあり、今年も県外から多くの多数の選手やボランティアの参加があったという。私はこれらを初めて知ったが、これらを如何にして定着させ、発展させていくか、県内外への広報が今後の課題と思う。

#### (4) 帰還困難区域立ち入り・川島様のお話をお聞きして（視察 3、研修 2 の所感）

広谷地集会場からは、葛尾村社協の川島さんも同乗して県道 50 号線を東進すると間もなく、帰還困難区域の野行行政区に向かった。

葛尾村は水田が少なく、長い労働時間の割に農業収入は少ない。葛尾村では農地の荒廃を機に、米作り方の農業ではなく、労働時間も短く収入も期待できる胡蝶蘭の栽培が計画されている。そのような期待が実現できるか否かは今後の展開を待たねばならないが、葛尾村の帰還困難区域の水田や農地の荒廃は他の町村のそれに比べても激しいと思われた。

川島さんの出身地である野行地区は、第二次大戦後県外からの入植者により開墾された土地であり、苦勞して広い水田を開いたという。避難後 6 年 7 か月を経過し、放置されて今は木々に隠れた民家や柳の木が生い茂った元水田や畑の跡を視察し、無念と残念の思いでいっぱいになった。

集落の墓地は供花も残り、元住民の方々の故郷への思いがうかがわれた。川島さん自身も帰還されているが、野行地区以外に居住する「2 地域居住」であって、社協の業務が多忙なせいもあり、現在では野行の実家に戻るのは年に数回になってしまったと言う。

浪江町に至る 50 号線の両側はブナなどのうっそうとした山林と深い溪流が続き、震災前はハイカーやイワナ釣りなど溪流釣りの人々でにぎわっていたと言う。浪江町との町境にモニタリングポストの線量は  $4.229 \mu\text{Sv/h}$  を示していた。この先は大柿ダムを經由して、かつては生活圏であった浪江町に至る。Uターンして戻る野行地区の往復では、ダッシュ村に至る道路や約 13 万トンの除染廃棄物減容化プラントに至る道路などもかいま見た。

今年 5 月の改正福島特別措置法の施行で、この帰還困難区域を現状からどのように復興させていくのか、どのような計画が策定されて、国と県でどのような協議が行われ、実施されていくのか、川島さんは、この地区の若い世代の気概がキーになると言うと言っていた。

#### (5) Cafe 嵐が丘（お茶と団らん）（視察 4、研修 3 の所感）

県道 50 号線のバス停近くを左折して、細い道を約 1.5 km 登り詰めたところに Cafe 嵐が丘がある。小説「嵐が丘」のイメージとは少し違うが、洒落た憩いの場であった。北海道池田町出身の奥様の震災前からのコレクションであるコーヒーカップ・ティーカップを選び、コーヒーとチーズケーキでほっとした時間を過ごした。店内で堀江様ご夫妻と Cafe 嵐が丘を紹介した雑誌を拝見したが、記事のとおりホスピタリティあふれるご夫妻であった。

いただいた名刺には遠くの郡山駅やインターチェンジからのアクセスが書かれてあった。常識外の遠隔地のこの葛尾村の山中で、しかも週 4 日の営業である。おいそれと東京や神奈川から喫茶に訪れられる場所ではない。葛尾村の人々だけがお客では営業を続けることは困難であろうし、支えるものは何なのだろうかと考えた。それはやはり、郡山在住のご夫妻の葛尾村への



思いが損益を超えてエネルギーになっているのではないかと思った。知らなければ誰も来られないようなアクセスの困難な場所で敢えて営業する「Cafe 嵐が丘」の成功を祈り、応援したい。

#### (6) 参加して（個人全体所感、神奈川に向けて）

「エコ・コンパクトビレッジ」が新たな村が目指す復興後の姿という。同じく帰還困難区域を有する他の町村とは異なった困難さもあると思われるが、農業と畜産の再生と新たな展開と、「ツールドかつらお」の開催などを軸に県内・県外への葛尾村の魅力を今後一層伝えていただきたい。今回、葛尾村の実情と課題を資料とお話と現地視察で勉強できて本当によかったと思う。

#### (7) 葛尾村様、ご協力いただいた皆様へ

ご多用にもかかわらず、この度の研修に親切・丁寧にご準備下さり、ご対応いただいたすべての葛尾村の皆様へ、篤く御礼申し上げます。

特に、詳細な最新の資料をご用意くださりまして、葛尾村の実情と課題についてお話を伺い、現地を視察できましたこと、まさに百聞は一見に如かずでした。

これらを、今後自分の活動に内在化して何が必要なのか考えていくとともに、他の人々に葛尾村の現状を伝える良い資料になると思います。ありがとうございました。

**（補足）**

## 1. 視察研修便参加者アンケート集計 &lt;回収数 13、() 内は回答数&gt;

## (1) 参加のきっかけ

- A (07) 福島でボランティアをしたいと思ったから
- B (00) 街中（ホットスポット）掃除をしたかったから
- C (06) 日程や工程がよかったから
- D (00) 知人・友人に誘われたから
- E (04) その他
- X (00) 無回答

## (2) 出発前の kfop からの案内

- A (12) ちょうどよかった
- B (00) 少なすぎた
- C (01) 多すぎた
- X (00) 無回答

## (3) 今回の活動内容・時間はいかがでしたか

- A (11) 非常に満足
- B (02) 満足
- C (00) 不満
- D (00) 非常に不満
- X (00) 無回答

## (4) 活動（視察研修、全般）時間について

- A (10) 今回と同じ活動時間が良い
- B (01) 定時（16 時）まで活動
- C (02) その他
- X (00) 無回答

## (5) これからも参加したいですか

- A (13) 参加したい
- B (00) 参加したくない
- X (00) 無回答

## (6) 今回の活動についてご感想・ご意見・神奈川に伝えたいこと

- ・ どの町村の役場の方々の中に、とても光る方がいて、とても皆さんから信頼されている。そして御苦労も見せずに活動をされている。いつもそんな方にお会いできるのがすごいことと思います。

- ・ いつもの研修便より多くの方のお話を聞くことができよかったです、一人当たりの時間をもう少し増やしていただけるともっとよかったですと思います。
- ・ 福島の現状を周囲の人たちに正しく伝えたい
- ・ 福島の人、自然を知り触れることができました。それぞれの取り組みの違いや考え方が違うことを知り、新しい発見と自分の引き出しが増えました。これが、生きるようにしたいです。神奈川へはお土産で伝えるつもりです。
- ・ 震災に関するまだまだ知らないことを知って、そのことを職場で話したりしてるから、少しでも周囲に伝えていきたい。
- ・ 葛尾村と川内村の視察研修に参加させていただきありがとうございました。渡辺さんと東さんが何度も打ち合わせをし下見をしてくださったから実現できた研修なのだと思います。両村の方々との交流を深めてくださったから私たちが現地に行けてお話を伺うことができました。この機会を大切に、つながっていったらと思います。
- ・ 葛尾も川内も初めて来ました。自然あふれる素敵な土地だということ、広めたいと思います。準備がとても労力のいることかと思えます。ありがとうございました。
- ・ 地政的条件もあるが、両村における復興事業の進め方の実際を勉強できてよかった。特にリーダーの皆さんの能力、意志、統率力に感銘を受けた。いずれも長い間の種まきが次第に実ってきた過程を見ることができた。これらを今後の自分の生き方に少しでも反映できたらと思う。でもやはり帰還してもなお自分たちだけではまならない方々の、家々の片づけ、草取り、剪定などの仕事を手伝いたい。小高で一人で家を守っているおばあさんが気になる。
- ・ 初めての場所だったのでとても勉強になりました
- ・ 今回は行政だけでなく民間で活動されている話を同時に聞いたので、葛尾村と川内村の違いだけでなく、それぞれの視点で見たり考えたりして興味深かった
- ・ ご説明していただいた方に感謝します。盛りだくさんでよかった。帰還困難区域に入れたこと、報告書にまとめます。そこの紅葉が美しかったことが哀しかったかな。
- ・ 葛尾村、川内村が原発事故により全村避難をきっかけにして、消滅地方という近い将来日本が直面する課題にいち早く直面し、それを克服しようとしている現状が見えた思いがしました。2つの村をこれからも見続けていこうと思いました。
- ・ 今回の視察のつながりを形にして継続していったらと。
- ・ 調整で大変なことも多いと思いますが、これからも研修便を続けていただければと思います。
- ・ 今後も研修便やボラバスを企画してほしい
- ・ **kfop** のメンバー同士の話ができて、関係が深まった。長崎さんが素晴らしい絵を描かれることを知り、驚きました。**kfop** すごい方の集まりですね。今回はお酒飲みすぎかな!!
- ・ 足を運ぶことが大切なことだと思うので、なかなか日程は合いませんが、今回のように合致するときはぜひ参加したいと思うので、これからも頑張ってください。
- ・ 今まで通り福島とつながって活動していったらよいと思います。なかなか参加できないですけど、私もずっとつながっていきたいです。
- ・ 渡辺さん、東さんの常日頃の福島県内での活動とそれを **kfop** の活動として今回のようなものに実らせたことに感謝する。今回各訪問先の講師の方々のプレゼンと資料は大変良かつ

た。今後もこのような資料をいただけるとありがたい。

- ・ 今後も視察研修便があれば参加したいです。第一回の「富岡その後」とか
- ・ これからも視察便を出してほしい。行政や住民の方々から話を聞くのはとても参考になります。

#### (7) kfop の今後の活動に期待すること

- ・ 今回の視察のつながりを形にして継続していけたらと。
- ・ 調整で大変なことも多いと思いますが、これからも研修便を続けていただければと思います。
- ・ 今後も研修便やボラバスを企画してほしい
- ・ kfop のメンバー同士の話ができて、関係が深まった。長崎さんが素晴らしい絵を描かれることを知り、驚きました。kfop すごい方の集まりですね。今回はお酒飲みすぎかな！！
- ・ 足を運ぶことが大切なことだと思うので、なかなか日程は合いませんが、今回のように合致するときはぜひ参加したいと思うので、これからも頑張ってください。
- ・ 今まで通り福島とつながって活動していけたらよいと思います。なかなか参加できないですけど、私もずっとつながっていきたいです。
- ・ 渡辺さん、東さんの常日頃の福島県内での活動とそれを kfop の活動として今回のようなものに実らせたことに感謝する。今回各訪問先の講師の方々のプレゼンと資料は大変良かった。今後もこのような資料をいただけるとありがたい。
- ・ 今後も視察研修便があれば参加したいです。第一回の「富岡その後」とか
- ・ これからも視察便を出してほしい。行政や住民の方々から話を聞くのはとても参考になります。

#### (8) 参加者状況

- ①性別：男性 (08) ,女性 (06)
- ②年代：20代 (00) ,30代 (01) ,40代 (02) ,50代 (03) ,60代 (04) ,70代 (01)、無回答 (02)
- ③職業：会社員 (04) ,自営 (02) ,パート (02) ,家事 (01) ,フリー (02) ,その他 (01)、無回答 (01)
- ④経験：初めて (00) ,2-3回 (00) ,4-5回 (01) ,6-9回 (00) ,10回以上 (01)、無回答 (01)

以上



保護用紙